

供覽

内閣官報

内閣官報



昭和七年三月四日  
陸軍省新聞班

# 上海派遣軍の行動

——上陸より停戦まで——

24

第一陸兵派遣の経緯（二月二日）

事件勃発以来上海の状況は益々悪化し約三  
万の我居留民の生命財産は刻一刻危殆  
に瀕し我海軍連日連夜の奮戦苦闘を以  
てするも尚保護すること困難となつたので  
二月二日廟議一決陸軍を上海に派遣し  
海軍と協力し邦人の保護及我權益の  
確保に任せしむることとなつた。

第二第十二師団よりの混成旅団

吳淞に上陸（三月七日）

七日我海軍陸戦隊は吳淞鎮の敵を攻撃し  
右敵は徒渉困難なる吳淞クリークを利用  
し堅固に陣地を設備し頑強に抵抗せる  
爲之を撃破するに至らなかつた。

この戦闘間第十二師団より派遣せる混成  
旅団は海軍陸戦隊の掩護の下に午後一  
時頃より吳淞附近に上陸を開始し直ちに

鐵道線以西の戦線に加入し第三艦隊司令長官の指揮下に入り海軍と固方面の戦斗任務を交代した。

此日朝来の雨は雪と変わり夜に入るや兵火の焰降雪に映し凄惨を極めた。

第三吳淞鎮方面の戦況（三月七日乃至十日）

七日、八日の兩日我陸海軍は吳淞鎮の敵に對

し多大の損害を与へたが陸正面は地形特

に無数の水壕の爲を強襲する場合に

裝備の關係上無益の損害を生ずべく又我

爆撃及砲撃の爲既に砲台として機能を

失つてゐる。國際航路を脅威することゝ不

可能であるから其奪取は後日を期すること

とし軍の一部を以て監視せしめることに存つ

た。依つて同旅団は一部隊を吳淞クリック南

岸の線に配置し対岸の敵を監視せしめ主力は其後方に集結し後方上海北側

地區に對する攻撃を準備した。

七日八日兩日の戦斗で我が軍の損害は負傷兵五名である。

十二日夜吳淞鎮方面の敵は頻りに挑戰的態度に出たので十三日には我海軍は艦砲を以て之に猛射を加へた。十三日固本少佐の率ける部隊はクリーク北岸の敵に對し威力搜索を實施した。戦闘は激烈を極め我には將校以下三十七名の負傷者が出たが所期の目的を達成し夕刻現駐地に帰還した。

3)

第四 第九師団の上陸（三月十四日乃至十五日）

第九師団を基幹とする部隊は數船団に分れ二月十日頃より内地港灣出發し十四日より上海に上陸十六日には進軍を完了した。茲に於て第九師団は十五日より遂次閩北方面の海軍陸戰隊の第一線の交代に着手した。

陸戰隊は尔後第三艦隊司令長官の指揮下  
に主として租界内の警備に任ずることとなり  
第十三師団の混成旅団は改め第十三師団長の  
隷下に入る。

第五 第十九路軍との交渉

所謂最後の通牒（三月十八日十九日）

第九師団長は上海に於ける各國利権の復  
雑しき各種事情に鑑み、努めて事態  
を平和的に解決せんとす。支那側の暴  
狀依然熄まず其增長慢心言語に絶する  
ものがある。

英國の斡旋に依り十八日午前四代参謀長は  
西国の和平を永久に確立する為日本軍が  
慎重に考慮せざる最少限度の要求即ち  
支那軍二十料撤退、吳淞要塞の防備撤去  
等の最後の友誼的勸告を齎し第十九  
路軍参謀長と会見し平和解決に關し意

見を交換し若くは彼は毫も誠意なく無條件受諾の如きは一笑に附して了つた。依つて平和的交渉は打ち切り十八日午後九時左の文書を交附した。

本職は平和友好的手段に依り任務を遂げんとする切なる希望に基き茲に貴軍長に対し左の件を通告す。

一 貴軍は速に戦闘行為を中止し二月二十日午前七時迄に現第一線より撤退を完了し二月二十日午後五時迄に黄浦江西岸地区に於ては租界西北端曹家渡鎮周家橋鎮及蒲淞鎮を連ぬる線以北黄浦江東岸地区に於ては爛泥渡及張家樓鎮を連ぬる線以北各租界の境界線より各二十吉米の區域（獅子林砲台を含む）の外に撤退を完了し且つ右地域内に

於て砲台其他軍事施設を撤去し  
新にもを設けざることを

二日本軍は貴軍の撤退開始後射撃爆  
撃及追撃動作を行はず但し飛行機  
に依る偵察は此の限りに非ず又貴軍  
撤退後に於ては日本軍は虹口附近に於  
て工部局道路地域(虹口工部局の周圍  
を含む)を保持するに止るべし

三貴軍の第一線撤退完了後日本軍は其  
の撤退を確認する為め護衛兵を有  
する調査員を撤退地域に派遣す  
右調査員は日本の国旗を携へ識別を  
便にす

四貴軍は右撤退地域外上海附近に在る  
日本人の生命財産を完全に保護すべし  
保護完全な存する時は日本側は於て適  
当の手段を採るべし獲取際一切有効

以上を禁止すること

五上海附近(撤兵區域を含む)に在る外國人の保護に關しては従て商議を行ふこと

六排日運動の禁止に關しては一月二十八日

吳市長の村井總領事に在る約束を嚴重に実行すること。

本項に關しては日本外交官憲より貴國上海行政長官に對し別に交渉するの所あるべし、

以上の諸項にして実行せられざる場合は日本軍は貴軍に對し自由行動を執るの已むを得ざるに至るべく其の結果生ずる一切の責任は貴軍に在り

右通告に對し十九日午後八時十五分第十九路軍蔡廷楷左少如く回答した。

二月十八日午後九時弁の書翰を拜閱し



日本軍は中華民國國民政府直接の  
軍隊であるから一切の行動は關しては  
其命令に従ふべく御表示の各節は  
既に國民政府に報告し外交部  
より直ちに貴國公使に回答せらるる  
筈で本職には未だ回答すること不許  
と此存二十九日午後七時附

國民政府よりは十九日午後九時迄何等  
回答を齎してあるか本情報に依れば  
同政府は蔡軍長及吳市長に對し  
左記要旨の回答を存すべく旨を命  
令して来たと

一 支那軍は租界周圍より二十軒に撤  
退する

二 日本軍も同様租界周圍より二十軒に  
撤退せよ

三 吳淞及宝山砲台の永久的武裝

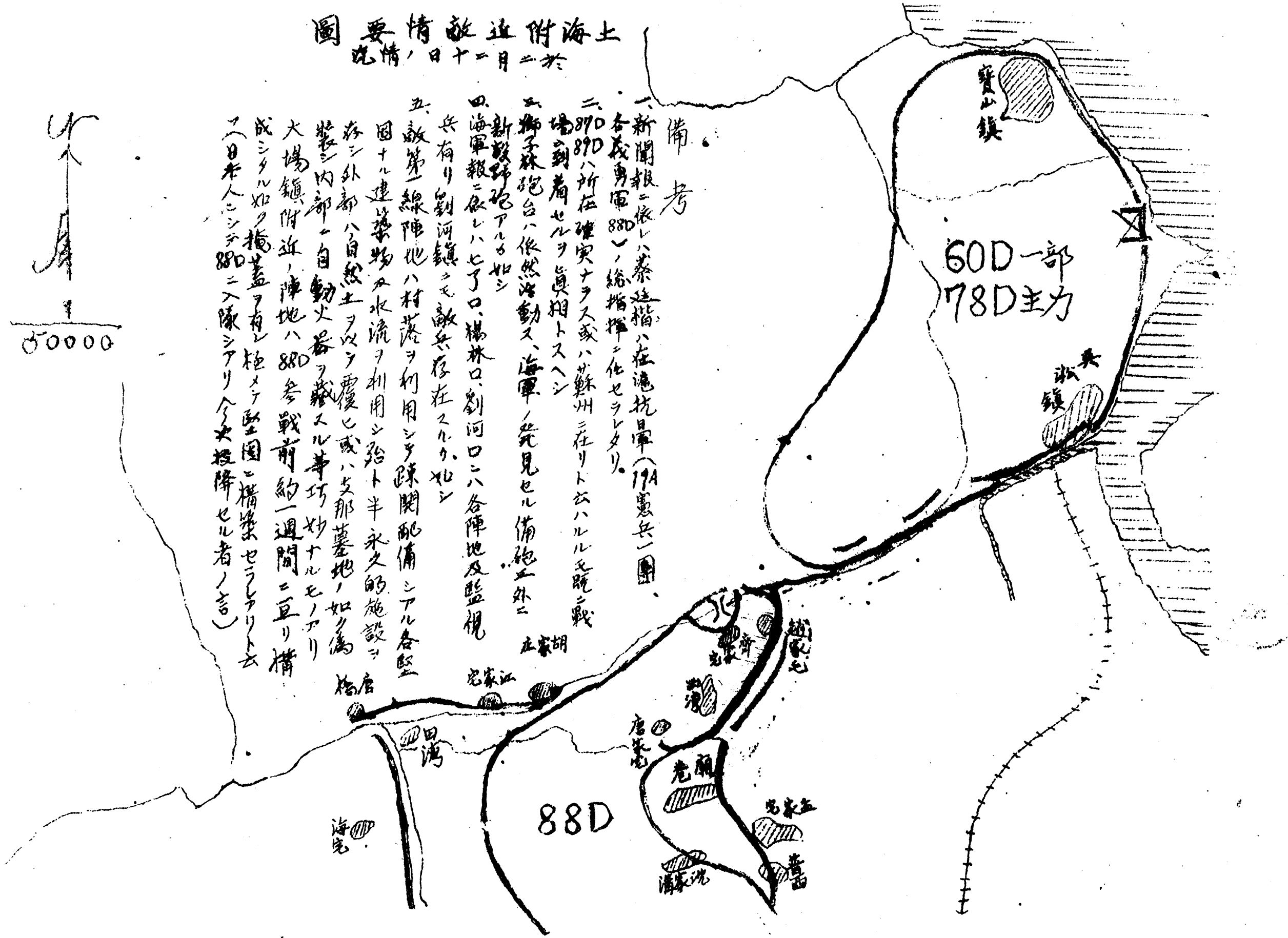
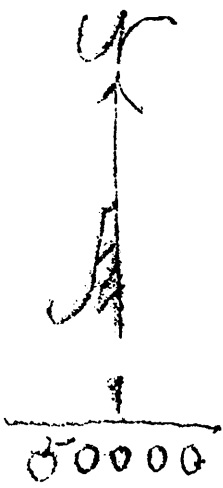
解除は之を拒絶する。

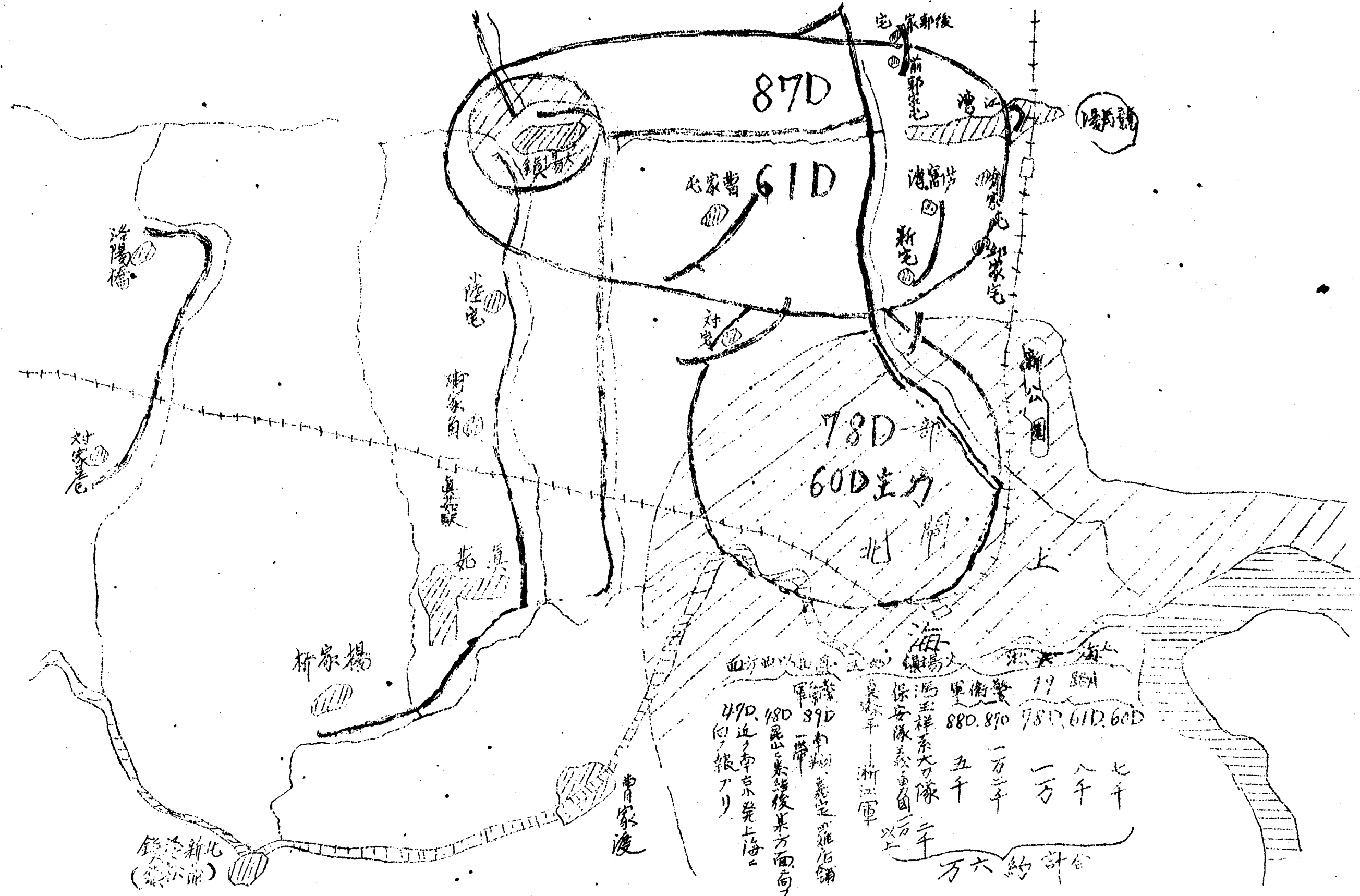
之を要するに支那側の誠意認めべきもの  
の毫末微塵もないので第九師団は二十日  
早朝より作戦行動を開始し実力を以て  
要求事項の貫徹を期することになった。  
當時に於ける敵軍の情況は左の通りである。

上海附近敵情要圖  
 於二月十二日之敵情

備考

- 一、新聞報ニ依レハ蔡廷楷ハ在滬抗軍(194萬兵一團)各隊勇軍(80)ノ總指揮ニ任セラレタリ。
- 二、870ハ所在確實ナラス或ハ蘇州ニ在リト云ハルルモ既ニ戰場到着セルヲ真相トスヘシ
- 三、獅子林砲台ハ依然活動ス、海軍ノ発見セル備砲五外ニ新設砲アルモ如シ
- 四、海軍報ニ依レハ了口、楊林口、劉河口ニハ各陣地及監視兵有り劉河鎮ニモ敵兵存在スルカ如シ
- 五、敵第一線陣地ハ村落ヲ利用シテ疎開配備シアル各堅固ナル建築物及水流ヲ利用シテ殆ト半永久的施設ヲ存シ外部ハ自然土ヲ以テ覆ヒ或ハ支那墓地ノ如ク偽裝シ内部ニ自動火器ヲ藏スル等巧妙ナルモノアリ
- 六、大場鎮附近陣地ハ880參戰前約一週間ニ亘リ構成シタル如ク掩蓋ヲ有レ極メテ堅固ニ構築セラレリト云フ(日本人ニシテ880ニ入隊シアリ今大投降セル者ノ言)





面方此以...  
 軍 890  
 180 崑山三集後某方面向  
 490 近ノ南京莞上海  
 向ノ振アリ

馮玉祥系大カ隊	2千
保安隊系各兵團	2千
軍衛警	880.890
79 89A	78D.61D.60D
	1万 2千
	5千
	1万 8千
	7千
以上	
万六約計合	

莫... 浙江軍  
 新北新 (蘇)

第六 第九師團第一次總攻撃

(三月二十日)

二十日午前七時三十分第九師團は概して左の部署を以て攻撃を開始した

一 吳淞支隊(歩兵約二中隊)を吳淞鎮対岸に残置 師團の右側背を掩護

二 混成旅團は廟巷鎮東方の敵陸地攻撃

三 右翼隊(歩兵六大隊を基幹とするもの)江

湾鎮及其北側の敵陣攻撃

四 左翼隊(歩兵四大隊を基幹とするもの)江

湾鎮及其南側の敵を攻撃

五 陸戦隊は現位置固守

師團の第一線部隊は敵を駆逐しつつ二十日夜迄に金馮宅(廟巷鎮東方)より孟家宅普西、順家宅、春家宅、方浜の線に進出した。江湾鎮には其中部(鉄道線路附近)に尚一部の敵が存在し頑強に抵抗し之を奪取するに至らなかつた。

第七廟巷鎮を抜く

(二月二十一日二十二日)

敵の陣地は堅固なる建築物を利用し且水壕鉄條網等の障碍物を有するもの多く而も交通路なく特に砲兵の前進は困難であり且所在に便衣隊の出没するものもあるから二十一日に於ては先づ江湾の残敵及所在の便衣隊を掃蕩し交通を整理し砲兵を推進して二十二日の攻撃を準備した。二十二日師団の右翼たる混成旅団は工兵の必死的活動に依り(所謂三勇士)突撃手路を開設拂曉廟巷鎮に突入り午前六時四十分之を奪取し續て戦果を擴張し爾余の諸隊亦勇躍前進に移り夕刻其第一線を以て廟巷鎮客家宅(混成旅団)孟家宅普西各西端(右翼隊)順家宅(左翼隊)の線に達し江湾及其西南に對しては一部を以て敵を監視せしめたこの夜半混成旅団の右側南孫宅及其東方

地区に於て約三大隊の敵兵未襲し来つたが  
同旅団は約三百の損害を喫へて悉く之を撃退  
した。又同方面の北孫宅を除く諸村落は  
同夜及翌二十三日吳淞支隊の主力が之を掃  
蕩した。

第八増兵に決す(二月二十三日)  
廟巷鎮の戦闘に於て警衛軍第八十八師が参  
戦したので帝國政府は事態を拡大せざる為  
少数兵力を以て解決せんとする當初の企圖  
に変更の必要を認め一層迅速且徹底せる打  
撃を敵に喫へて迅速なる時局の收拾を圖るを  
可とするに廟議一決し所要の部隊を増加し  
第九師団と併せ上海派遣軍を編成陸軍大  
將白川義則をして指揮せしむるに決した  
該増派部隊は二十七日頃より逐次内地港  
灣を出発上海に向つた

第九 第九師団第二次總攻撃

(二月二十三日乃至二十九日)

地形並敵陣地の状況は慎重なる準備を  
愨へ爆撃及砲撃の集中威力を利用するの  
必要を認め二十三、四西日第九師団は更に諸  
準備を整へ二十五日朝攻撃再興した即  
ち此日朝より爆撃及砲撃により敵陣地の據  
点を粉碎し午前十時頃より一斉に歩兵の  
攻撃前進に移り敵に多大の損害を與へて午  
后四時頃金家墻及前後郭家宅附近の陣地を  
奪取した。江湾鎮部落内に残存した部隊  
もこの日西方に退却した

(13)

次で二十六日午前六時二十分若林少尉は師団  
正面に於て最堅固に設備せられたる嚴家橋の  
陣地を奇襲し一兵をも損せず之を占領した  
二十七日には江湾鎮の西端一も我手に歸した  
師団は概ね二十七日占據の線にあつて兵力を  
補充し彈薬器材を整備し爾後の攻撃手を  
準備した



第十上海派遣軍第三次總攻撃部署

白川大將は二十九日揚子江口に到着し諸般の状況に鑑み迅速なる攻撃を必要なりとし三月一日を期し第三次攻撃を實行するに決し第九師団をして其準備せる所に從ひ廟巷鎮西方張家橋附近より大行橋を経て夏馬灣附近に亘る線に進出する如く攻撃せしめ新に到着せる第十一師団主力をして早朝より揚子江本流沿岸に上陸し可成速に瀏河鎮方面より大場眞茹方面に前進する如く部署した

第十一第九師団の攻撃(三月一日)

第九師団は二十九日其補充員を得て兵力を充実し次で第十一師団の一部も到着したので之を両翼隊の中央に増加し一日早朝より猛烈なる攻撃を開始して夕刻南孫宅中心巷 廟巷 田園 四車 茲 二十三箇 韓家塘 芦窩灣の線に進出した

本戦中に林大八大佐は壯烈なる戦死を遂げた  
此夜師団は其第一線を更に寶尤巷 胡家湾  
大行橋 孟家屯 楊家屯の線に推進し 大場鎮  
附近の敵陣地に対し密に接觸を求めた

第十二 第十一師団の敵前上陸

第十一師団の主力は三月一日早朝揚子江本流  
沿岸に上陸した。機関銃を有する約百の敵  
は我上陸を妨害したが適時之を制圧しつゝ果  
敢なる敵前上陸を敢行した。敵は南京軍  
官學校教導隊に屬するもので屍体十有遺  
棄して西南方に退却した。我損害將校一兵一で  
ある

此の日天候は静穏にして江上小波も立たず

我が陸海兩軍の協同は緊密適切に行はれ  
同師団平素訓練の成果は遺憾なく發揮せられた  
師団は同日午後苗莖營の敵を攻撃し午後五  
時之を占領した。我損害將校以下四名、負傷  
一名である。敵の遺棄せる屍体約七十である

第十三敵軍總退却

二日早朝より師団並陸戦隊は攻撃を再興し当面の敵を撃攘して午後〇時三十分大場鎮を午後四時と眞茹を奪取し同日午后四時三十分其第一線を以て鴻宅（大場鎮西北三軒）老人橋（大場鎮西北二軒）鐘港及三十七里王家屯（鉄道線路上）に達した敵は方面共大損害を蒙り全く潰乱状況にて鉄道水路道路に溢れて蘇州並松江方面に退却した

第十一師団は二日早朝苗莖營附近出發、午後四時三十分劉家鎮を奪取し引續き嘉定方面に向ひ敵を追撃した

第十四戦局終りを告ぐ（三月三日の状況）  
海軍陸戦隊（歩兵の一部隊を屬す）は三日午前相当頑強に抵抗せる残敵を駆逐し吳淞要塞を占領した

第十一師団の一部隊は同日午後新に吳淞附近に到着し直ちに戦線に加入宝山城及獅子林砲台の攻略に向つた。

我陸兵の死傷は約十名である。第十一師団は三日午後主力を以て婁塘鎮方面より一部を以て南翔方面より嘉定を挾撃し午後五時三十分之を占領した。

第九師団は三日南翔及眞茹附近の地区に兵力を集結した。

### 第十五停戦声明

白川上海派遣軍司令官は彼我の状況及び國際關係を顧慮し公使、海軍側と協議の上三日午後二時左記の如き声明を發表した。

### 聲明

帝國陸軍は上海附近に派遣せらるる以来帝國海軍と共に平和的手段を以て帝國居留民保護の任務を達成せむ事に努力したるも此見地に依る我軍の要望

不幸にして支那第十九路軍の容るゝ所  
とならず遂に戦中行為を惹起するに至ル  
リ。今や支那軍は帝國陸軍の當初要求し  
たる距離以外に退却して帝國臣民の安全  
と上海租界の平和とは爰に回復の徴を認  
めらるゝに至ルを以て本職は支那軍にし  
て対敵行動をとらざる限り暫く軍を現  
在地に止めて戦中行動を中止せんとす  
右聲明す



上海方面増兵ニ関スル續報

三月十四日 陸軍省發表

日軍ニ警衛軍ノ増援ニ依リ上海附近

茅九師團當面ノ支那軍兵力頓ニ増

加セシニ鑑ミ同方面ニ増遣セラレタル

兵力ハ上海派遣軍司令部、茅十一師

團並第、十四師團ナリ

右増遣兵力中最後ニ輸送セラレタル

茅十四師團ハ三月七日ヨリ上海附近ニ

上陸ヲ開始シ既ニ其主力ノ揚陸ヲ了

レリ